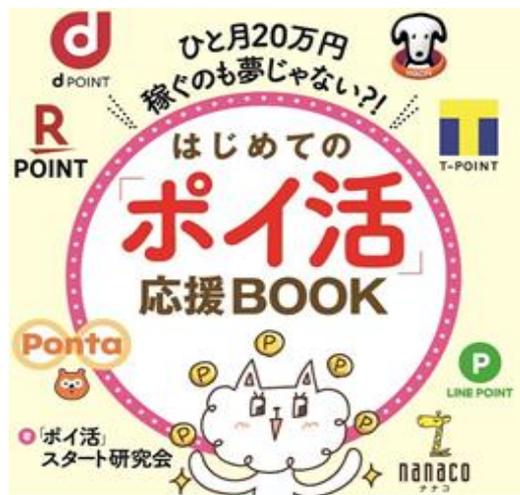


キャッシュレスが順調に進行中?! 消費税に負けない家計術(その3) 2019/10/30

キャッシュレスのメリットは消費者側と販売店と、そして！国家・政府にも及ぶ !!

何のために国家・政府はキャッシュレス決済を推進しているの？ 参考：経済評論家 斉藤 賢爾氏 資料



電子マネーには、

- ①キャッシュレスサービス、
 - ②仮想通貨（暗号資産）、
 - ③ブロックチェーンの3種に分類できるとのこと
- 今、フィンテック※という言葉のもと、あらゆる場面の根幹にある「お金」のあり方が変わり始めた。
- 斉藤 賢爾氏は、この先「貨幣経済が衰退する可能性は高く、その未来にまったく異なる世界が立ち上がる」と主張する。

※フィンテック：Finance と Technology を組み合わせた造語。ファイナンス・テクノロジーの略。 「ICT を駆使した革新的、あるいは破壊的な金融商品・サービスの潮流」などの意味で使用される。

参照： 斉藤 賢爾氏 新著『2049 年「お金」消滅 貨幣なき世界の歩き方』。

今なぜ、急速にキャッシュレスサービスを推進しているのか？

キャッシュレスサービスは、なぜ今、急激に社会へ浸透しているのか？ その理由

①利便性が認識された。

スマホの決済には、現在大まかに 2 つの方法あり。

1 つは、店のレジ横の QR コードを、スマホのカメラで読み取って支払う方法。

2 つは、スマホの画面にバーコードを表示して、店のレジで読み取らせる方法。

日本人の多くは、クレカと交通系 IC カードには、使い慣れているので、

「何を、今さら QR コード？」といった感がある。

(コンビニなどでは、クレカをバーコードに読み取らせる方法が主流)。

決済のスピードは、クレカ大手会社の JCB が 2019 年に

「決済速度に関する実証実験結果」を、下記のように発表をしている。

レジでの精算時にかかる時間の順番は、

①非接触カードが最短で 1 番早い……取扱時間が最短で、しかもコストが小さい

- ②クレカ……2 番目に早いですが、店舗側の取扱手数料支出が大きく店舗側は不利。
(クレカの場合の取扱店側の手数料支出は、**1%~10%**(中央値 **3%**)と率が高い)
- ③QR コード……クレカよりは、少し時間がかかるが、取扱手数料が**ゼロ**。
- ④現金………時間がかかり、誤算が多く雑多な手間がかかり、非衛生。

クレカの・メリットとデメリットは？

一方、ハードウェアは、コンビニなどの店舗では、元々バーコードリーダーがあり、ソフトウェアを追加導入するだけで、新たな投資は殆ど不要。
従来は、ハードとソフトの同時導入が必要でコストが多額であったが、今はソフトの導入だけが済み、店舗側でも、コンビニでの **QR** コード使用のメリットは大きい。

お店の立場では、

日本では元来、キャッシュレスとしては、クレカが、一番多く使われていた。

しかし、クレカの決済手数料は、店舗側では **1%~10%**(中央値 **3%**)の手数料がかかるので、「ポイントを付けるゆとり」がなかった。
スマホの取扱店での決済は、店舗側の手数料負担は**ゼロ**なので、店舗にとってはメリットが大きくまた消費者へのポイント還元も容易。

現在、電子決済システムの場合、加盟店(店舗側)にとっての取り扱いコストが徐々に安くなりつつあり、「無料」という流れにある。店舗側での設備構成としては、店頭の「**QR** コード」(読み取り)導入コスト負担は極小で済む。

なお、スマホ決済事業者(社)は、データを集めて商流を分析し、それをメーカーへ売ったりすることでコストを吸収して、加盟店への取扱手数料を低減させる資金源を獲得する手腕をつけながら経営方針を変えていく過程にある。

また、日銀黒田総裁の提言を受けて、各プラットホーム取り扱い業者間のキャッシュレス決済の普及に対して事業者間の相互乗り入れによる協調も始められており、世界における、キャッシュレス進展の後れを取り戻せる方向にあると思われる。

何のために キャッシュレス化を推進しているのか

① なぜ、キャッシュレスを推進するのか——効率化

(1) 効率化

ATM 取り扱いの決済量の飛躍的な拡大をめざして、移行していく途上では、人の仕事を奪うことになりかねないので、そのことについて手当てすることは必要でも、それはまた別の問題。

人口減少の進行スピードが速い日本では、予想される人手不足も同時に解消し、経済効果を高めることができる。

(一方で、かつて路上の公衆電話 BOX が急減したように、今後 ATM の激減も考えられる)

支払手段のデジタル化で新しい可能性を展望する

(2) なぜキャッシュレスを推進するのか——アングラマネーの一掃

国家は、「お金」の流れを監視し把握したいとの要求があり、

- ①税金を確実に徴収できること、
- ②犯罪に使われる資金を特定する(アングラマネーの一掃) といった狙いをもちたい。

…インドでは、**2016**年に高額紙幣(1,000 印ルピー=¥1,550 と 500 印ルピー)を廃止し、支払い手段をデジタル化させ、金銭の流れのモニタリングを可能にしたこと。

それにより、「物流と金流」の重要な社会基盤を自動化し支えることで、新しい可能性を開いている。

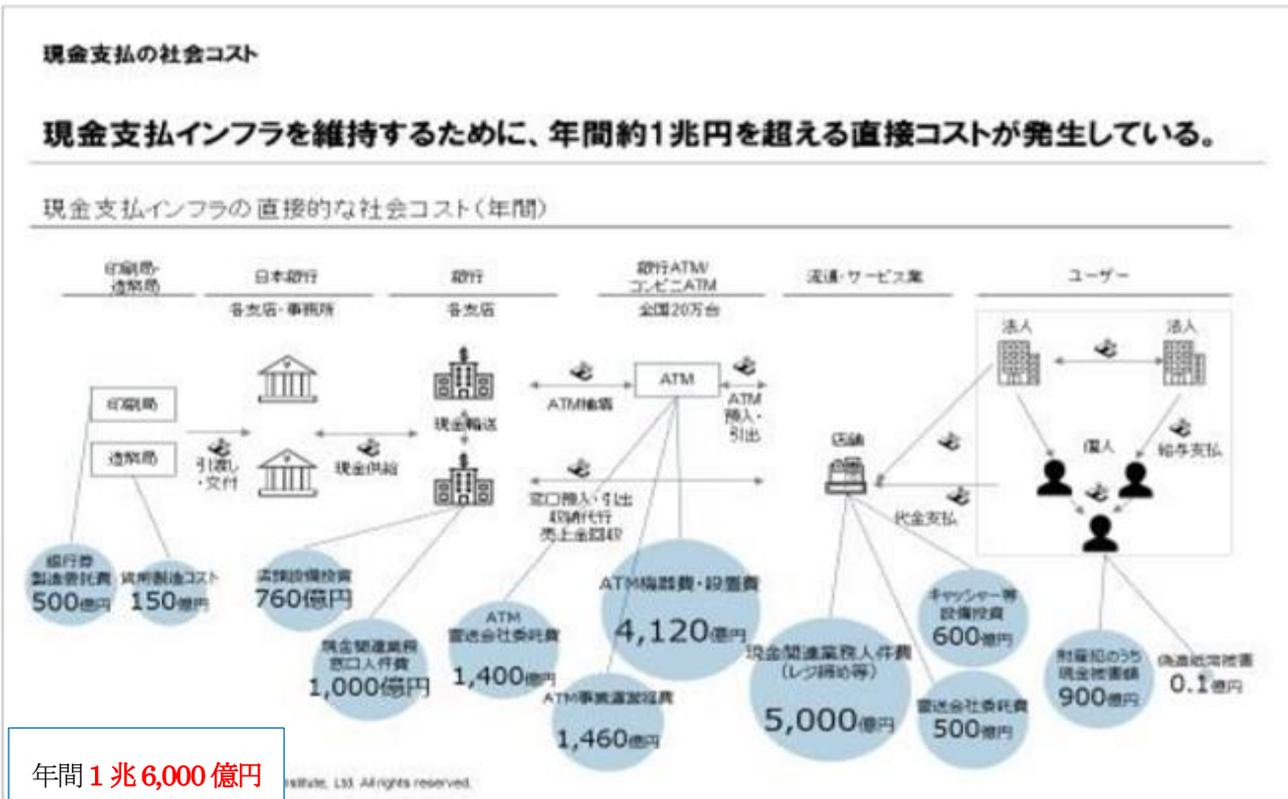
…日本政府は **2019**年 4 月に、**2024**年度を目処に、一万円札の新札発行を発表したが、この流れからすると、世界の動きとは逆行とでも云える施策をとっている。



先日、**2024**年をメドに紙幣刷新が発表された。20年ぶりのデザイン更新となるが、**高額紙幣廃止**のチャンス逃したのでは、と経済評論家山崎元氏は云う(写真:時事通信)

新紙幣発行を決めたことは、…クレジットカードを持つことができない経済的弱者や、デジタル化になじめないと云われている高齢者などに配慮したのかも知れないが、「現金の使用を減らそう」という方向性を明確に打ち出せばよかったのではないかと、とも経済界では云われている(今からでも遅くはない。考えなおしては ?)。

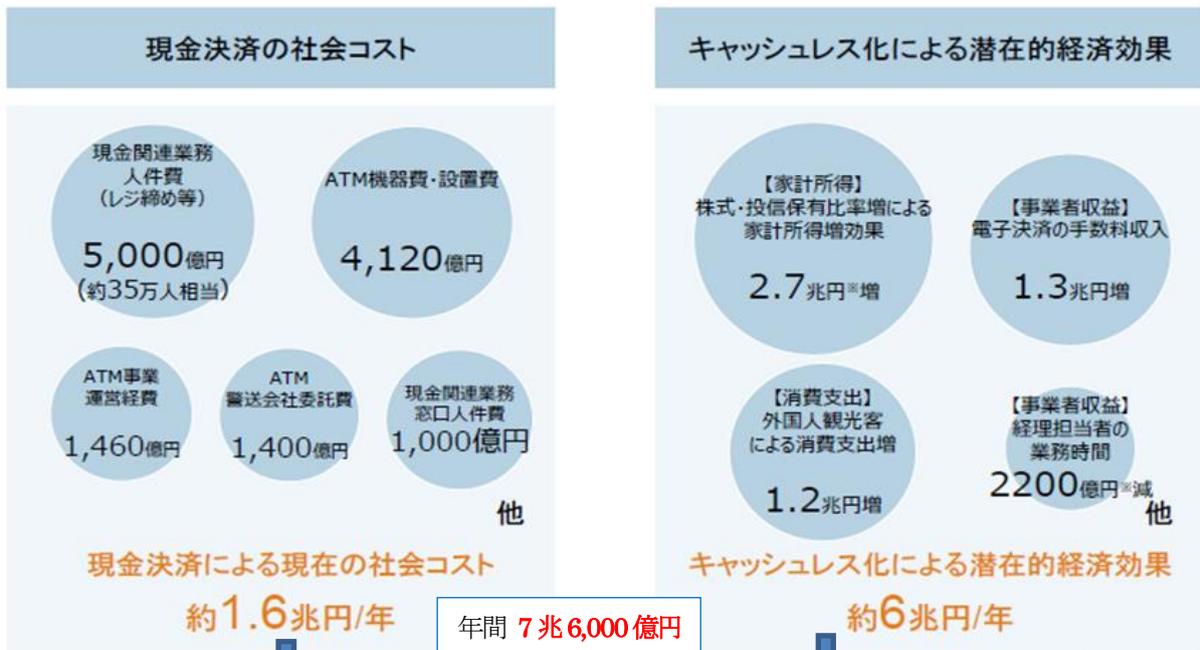
図表 26 現金支払の社会コスト



(出典) 野村総合研究所 検討会発表資料(第九回)

FinTechサービス普及の前提条件の改善による経済効果の試算 調査サマリー

キャッシュレス化により、現金決済の社会コスト削減と、家計や事業者に対する経済効果が期待できる。



年間 **7兆6,000億円** 社会コストの削減の可能性あり

経済効果全体のうち、キャッシュレス決済による寄与分の推計結果

100% キャッシュレス化が成ったと仮定の場合上の2枚の図で約**9兆円**のコスト削減効果が期待できる

昨年10月の2%消費税増税は、ざっくり東京都予算の**1/3程度(約4.5兆円)** 税収に相当

(3) なぜ、キャッシュレスを推進するのか——デジタル化推進

キャッシュレス化は、社会のデジタル化の一翼を担う側面があり、キャッシュレス化の意味は、紙幣や硬貨を作るために用いられてきた「印刷術(プレスして複製する)」複製技術を「デジタル」に置き換える、ということ。

現金を使い続けることで、下のようなコストが、付きまとっていることになる。

- (1) 警送会社委託費…貨幣鑄造・運搬・管理・集計等現金管理・運営コストが膨大であること。
- (2) レジ締め作業… ATM 機器(ハード/ソフト)・ATM 設置手数料、銀行券製造委託費貨幣製造コストなどのコスト、
- (3) 紙幣鑑別機 …出納機・システム・レジ(キャッシュア)・自動券売機・計数機 AT 事業運営経費・偽造紙幣損害・売上回収等、各種の多大なコストがかかる。

上記(1)～(3)のトータルコストは、上の図表 26 にあるように、**100%**キャッシュレス化によって削減される社会的コストの試算(野村総研 1998 年)。

加えて、現在のゼロ金利の環境下、タンス預金の増加で著しくお金の流通が滞っていると指摘されている。

1万円札を廃止すると、キャッシュレス決済が増えて、何よりもタンス預金としての お蔵入資金が銀行口座に排出され、経済取引に使われ表に出てくるようになり、また脱税や不正な取引がやりにくくなり、国家経済には多大のプラス効果をもたらすであろうと云われている。

キャッシュレス決済の普及は、個人に関する大量のデータを生み、新しいビジネスを後押しする効果があるはず。個人の取引データが、ビジネスに徹底的に利用されることには弊害もあるだろうが、キャッシュレス決済を推進することが正解とも云われている。

——おわり——